

## 2022年度 宮島町家通り活性化プロジェクトレポート

### 【プロジェクトの概要】

宮島町家通りの活性化と轆轤産業の新しい展開を生み出すことを目的に、宮島島内の地域住民と協働し、宮島轆轤を発展させた照明作品の研究と学生による地域での展覧会を開催。有志学生、卒業生が宮島町家通りに点在するお店で展覧会を開催することにより、アート活動による地域の魅力づくりに貢献。

### 【実施内容・方法】

宮島轆轤の照明デザイン研究を通じた成果発表を島内の各所で開催

- ① 宮島の地域住民と協働で企画する地域イベント「いつくしまうしろあるき」において、有志学生・卒業生の作家による展覧会を開催
- ② 町家通りのお店に作品を展示し、訪れる地域や観光客からの意見を聞き、今後の作品制作に活かしていく。

### 【プロジェクトでの成果等】

本プロジェクトの主な取り組みとしては、芸術学研究科博士後期課程 1年生の下村さんによる宮島轆轤の照明デザイン研究として、宮島町家通りのお店など計8ヶ所を展示場所に成果発表展を開催した。下村さんは、学部生の頃から宮島轆轤伝統工芸士の藤本悟氏に轆轤技術を学び、現在も轆轤の後継者育成事業に参加する1人として継続的に宮島へ足を運び轆轤技術の習得を目指している。昨年4月から博士後期課程に進学し轆轤という伝統産業を受け継ぐだけでなく、若い人の感性で宮島轆轤の新しい展開に挑戦している。

具体的には、本来器として使われる宮島轆轤を、より現代的な使い方やライフスタイルに合わせた展開を考え、照明作品として轆轤を活かすというものである。一見すると簡単に見える照明作品だが、木地の薄さを均一にすることや照明として安定性を維持できる実際の軽さや見た目の軽さ、デザイン性や量産化など、プロダクトとして販売することをゴールにすると難しい課題が多くある。

今回は、量産化はできないが、宮島轆轤を照明として展開するアイデアを普段宮島轆轤を見慣れている島民の方に紹介できたことと、町家通りのお店で実際に照明を展示したことでどのような見え方になるか試行できたことが成果である。今後も轆轤の照明作品を発展させていくとともに、次年度以降は量産化に向けたコストカットや地域内外への認知度向上などに取り組む予定である。

■日時：12月10日（土）～12月25日（日）＊10:00-16:00もしくはお店の営業時間に準ずる（土日のみ6日間）

■場所：ぎやらりい宮郷、ハヤシヤカフェ、ゲストハウス菊川、巖妹屋、ギャラリースペース「因」、酒と器久保田、三國屋、博多屋の計8ヶ所で開催（以下展示の様子）



ぎやらりい宮郷



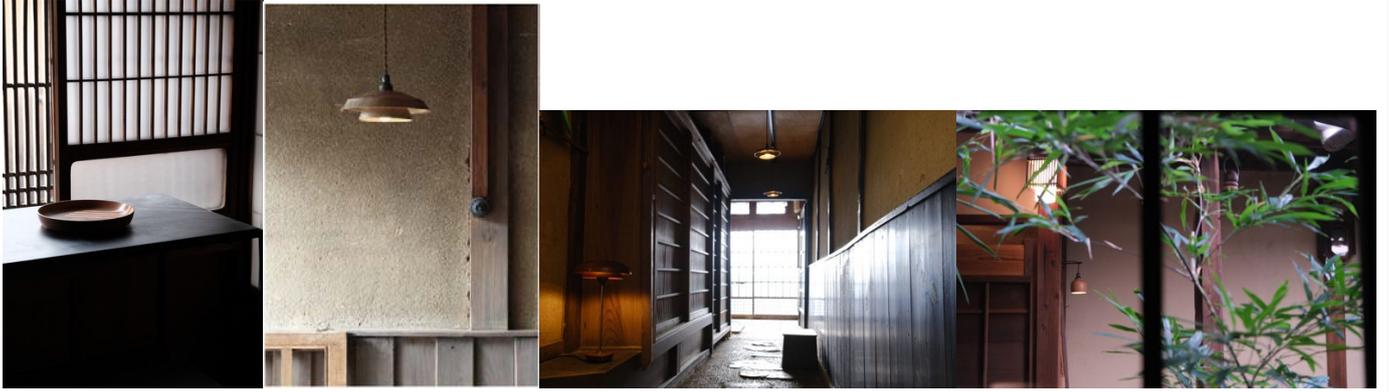
ハヤシヤカフェ



ゲストハウス菊川



巖妹屋



ギャラリースペース「因」



酒と器 久保田



三國屋



博多屋

2つ目の取り組みとしては、12月17日、18日の2日間、町家通りの住民と協働し、町家通りの活性化を目的とした地域イベント「いつくしまうしろあるき」を企画。町家通りに点在するお店で、金属造形の学生や立体造形の学生、漆造形の卒業生達が作品展示を行った。訪れた観光客や地域住民から直接作品に対する評価をいただき、作家本人が自身の作品を紹介し販売する機会もつくり、島民や観光客からの直接的なリアクションを今後の制作に活かせる展示となった。



イベント「いつくしまうしろあるきのチラシ」



学生の作品



お店での展示風景

今後の展開としては、地域住民と協働で企画する「いつくしまうしろあるき」を継続的な地域イベントとして定着させることが目標である。イベントを地域内外でより認知してもらい、学生や卒業生を含めた作品展示を町家通りのお店を活用しながら取り組んでいく。また、作品の展示だけでなく、地域と交流するWSも検討し、他学部の学生も入りやすい環境を整備したいと考えている。